緩勾配屋根積雪荷重割増

【STRDESIGN リファレンスマニュアル抜粋】

緩勾配屋根積雪荷重割増 🌓 -	自動判定				
最上端から最下端までの水平投影	長さ 0000 (m)			
削除	更新 閉じる				
は根プロパティの「緩勾配屋根	諸雪荷重割増」を[0-自動 判	[定]にすると			
「建物概要」の「多雪地域区分	が"一般"	inclusion of the			
)「建物概要」の[積雪深さ]が	15cm 以上				
③ 屋根の勾配が 15度(26.79/	100) 以下				
〕 屋根の棟から軒までの長さか	š 10m 以上				
D場合に積雪荷重の割増係数を	算出します。				
管定式]					
朝増係数 $\alpha = 0.7 + \int (dr / \mu)$	• d) (≥ 1.0)				
220					
dr:屋根勾配と棟から軒	までの長さに応じた値				
μ :屋根形状係数					
d :垂直積雪量(m)					
・け以下で質定します					
(平投影長さ(L)より、屋根4	勾配が2度以下と15度以	とのdrを求める。			
L≦10m で、屋根勾配	l≦2度:dr=0.05、2度·	<屋根勾配≦15度	: d r	=0.01	
L ≧ 50m で、屋根勾配	l≦2度:dr=0.14、2度·	<屋根勾配≦15度	: d r	=0.03	
2度<屋根勾配<15	度の場合は、線形補間で算	出する。			
計算例]					
屋根(一般部)2	固定荷重		653	653	653
屋根形状係数Au : 0.963	(梁z))°y>4m)		(723)	(723)	(723)
割増係数α:1.156	(響ス))°ソ>@m]	1	(803)	(803)	(803)
(dr=0.030)	積雪荷重×μ×α			334	
	合計		653	987	653
	(響z))°y>4m]		(723)	(1057)	(723)

d r =0.030, μ =0.963, d =0.15m

割増係数 α = 0.7+ $\sqrt{(0.03/(0.963\times0.15))}$ = 0.7+ $\sqrt{0.207612}$ =0.7+0.4556=1.1556 = 1.156 (割増係数 α が 1.0以下の場合は、1.0になります。)

(梁スパン>6m)



(1137) (803)

(803)